

**宇陀市総合計画後期基本計画（案）
第2編 基本構想（2018～2029）**

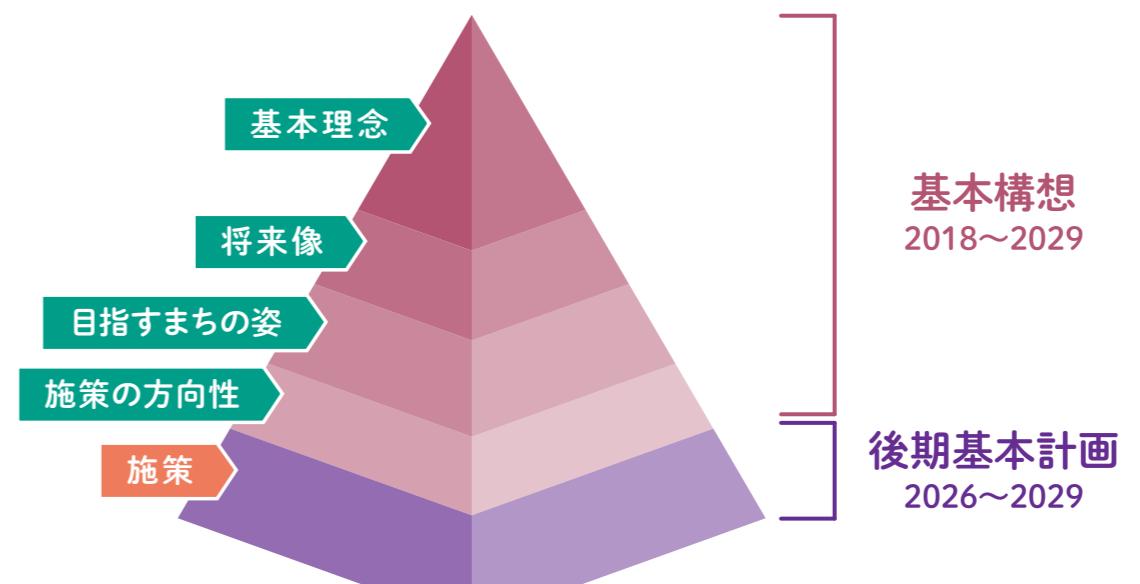
第2編

基本構想 (2018～2029)



第1章 基本理念と将来像

宇陀市の「基本理念」、目指す「将来像」、「将来像」の実現に向けた6つの「目指すまちの姿」及び「施策の方向性」は基本構想の計画期間である12年間で継続的に取り組むものとして、後期基本計画においても引き続き継承します。



(図) 基本構想及び後期基本計画の体系イメージ

■ 基本理念

〈宇陀市民憲章〉

宇陀市は、記紀万葉の風が高原の緑をわたる、輝く歴史と豊かな文化の息づくまちです。かけがえのない生命であるわたくし達は、宇陀市民としての誇りと責任を胸に、一人ひとりが未来への限りない発展を願い、この憲章を定めます

- 一、すこやかな心とからだを保ち、だれもが生きがいを見いだせるまちを育てます。
- 一、共に支え合い、互いの尊厳を大切にする、あたたかいまちを創ります。
- 一、人と自然が共生しひびき合う、やすらぎに満ちたまちを守ります。
- 一、歴史や先人の英知に学び、文化と産業の伸展する、活力あるまちを目指します。

■ 将来像

みんなが生きがいをもって暮らせる魅力ある健幸なまち 宇陀市
～輝く歴史と豊かな文化の息づくまち～



第2章 目指すまちの姿

宇陀市の将来像を実現するための「目指すまちの姿」について、6つの柱を定めています。

目指す
まちの姿

1

健幸なまち

「健幸都市”ウェルネスシティ宇陀市”」の実現を目指し、地域住民がいきいきと健康に生活できる環境や、市民一人ひとりが互いに助け合い、支え合うまちづくりの実現を進める必要があります。

そのため、保健・医療・福祉が連携し、健康づくりを行うとともに医療環境の充実や母子保健施策、障がい者施策、高齢者施策等の充実を図ります。また、「自助」「互助」「共助」「公助」の理念を浸透させ、地域の特性を活かしながら、「健幸」を実現するためのまちづくりを進めていきます。

目指す
まちの姿

2

暮らしやすいまち

宇陀市の魅力をより向上させるため、様々な都市基盤について、持続可能な整備・維持・活用を検討することで、誰もが住み良く、安全・安心なまちづくりを進める必要があります。

また、地域公共交通、道路交通網、上下水道、情報通信基盤等の公共インフラの整備・維持・活用による住み良いまちづくりや移住・定住の促進を進めるとともに、災害に備えた安全・安心な暮らしの実現を進めていきます。

目指す
まちの姿

3

活力あるまち

豊かな自然と歴史、文化遺産といった地域資源が数多くある中で、中心市街地の活性化や雇用の創出、人材の確保が求められています。

そのため、地域資源の保全と活用や、農林畜産業・商工業の再生・活性化に努めることで、活力と個性ある地域産業の創出、持続可能な地域経済の発展を図ります。また、多様化する観光ニーズに対応するため、地域資源のPR活動をはじめとした観光戦略を推進し、関係人口の増加を図ります。

目指す
まちの姿

4

生涯輝くまち

誰もが互いの人権を尊重することは重要です。いじめ問題等がなく、性別や障がいの有無にかかわらず、自分らしく生涯を通じて輝き、よろこびや生きがいをもって暮らせることは、宇陀市が目指す将来像の実現に向けた基本となります。

そのため、誰もが学び、活動できる地域づくりを進めるとともに、宇陀市に住む誰もが地域で学習活動やスポーツ・芸術・文化活動等に取り組める環境の整備を図ります。また、地域の特性を活かした教育と文化振興を進めます。

目指す
まちの姿

5

自然豊かなまち

地球温暖化やエネルギーの大量消費など、自然を取り巻く環境問題は宇陀市も例外ではありません。宇陀市の魅力である、豊かな自然や美しい田園風景と調和したまちづくりを維持し、さらに強化していく必要があります。

こうした環境問題への対処や宇陀市の魅力の向上を図るため、カーボンニュートラルによるグリーン社会の実現に向け、自然と共生した、持続可能で快適なまちづくりを進めます。

目指す
まちの姿

6

地域力を発揮するまち

地方分権の進展や行政需要が複雑・多様化する中、市民のニーズを的確に把握することが重要となっています。しかし、財政の健全化が緊急課題とされている中、行政だけで多様なニーズや高度な課題に対応することは困難であり、地域が一体となって対応することが求められています。

そのため、市民、ボランティア団体等と行政が連携することで、自分たちのまちについて考え、取り組む体制を強化し、地域力を最大限発揮できるまちづくりを進めます。



第3章 人口ビジョン

1 人口推移と将来の見通し

① 人口推移と将来の見通し

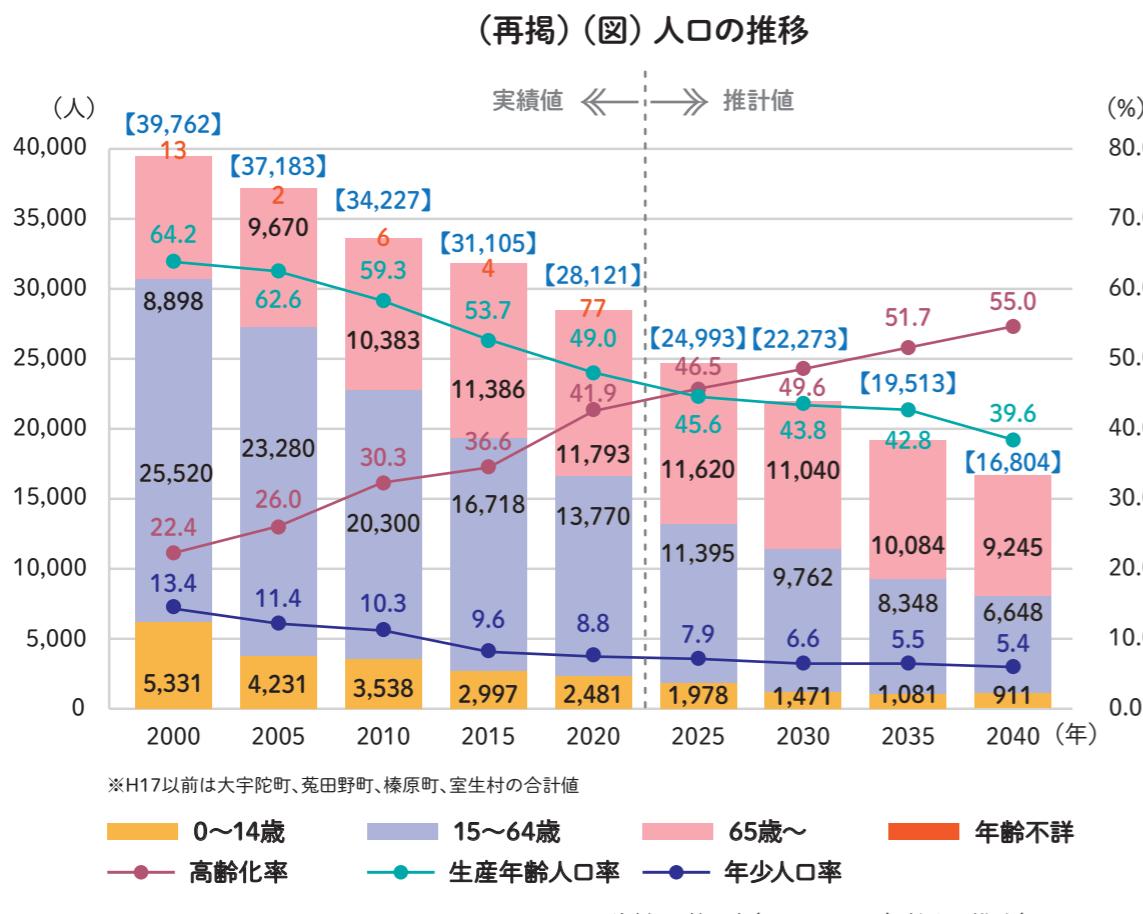
宇陀市の人口は合併以降減少傾向が続いている、2025年10月1日時点の住民基本台帳人口（※1）（※2）は26,226人となっています。

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）によると、2040年に人口は16,804人まで減少し、高齢化率は約55%まで上昇すると推計されています。

なお、2018年に実施された2015年国勢調査を基にした推計値では、2040年人口は16,677人、高齢化率は52.8%と推計されていました。2015年から2020年にかけての人口動態の変化の結果、将来的な人口がわずかに増加しているものの、高齢化率が合わせて上昇していることから、高齢者の健康寿命の延伸等による高齢者の増加がその要因と考えられます。

※1：2025年国勢調査の結果は計画策定期点では未発表。

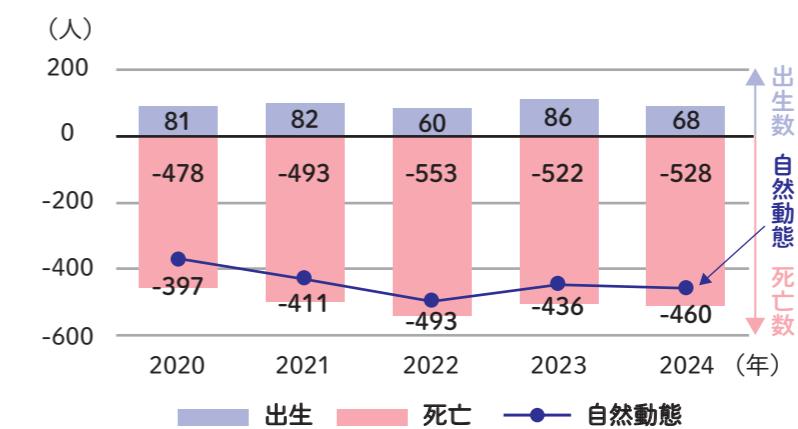
※2：住民票を移さずに転出する人がいることから、住民基本台帳人口と国勢調査の人口では差が生じる



② 自然増減の傾向

宇陀市の自然増減の傾向をみると、出生数は年間約60～80人で推移しているのに対し、死亡数は年間約500人で推移しており、死亡数が出生数を上回る自然減の傾向が続いている。

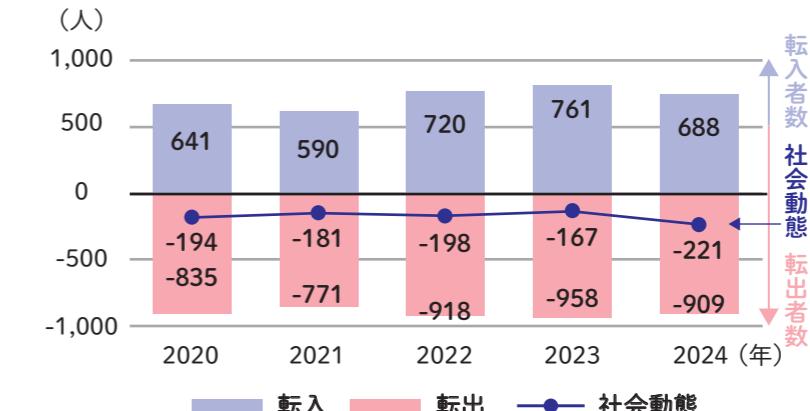
（図）自然増減の傾向



③ 社会増減の傾向

宇陀市の社会増減の傾向をみると、転出者数が転入者数を上回る社会減の傾向が続いている。転出者は20～30代が多く、就職・就学や結婚を機に転出する人が多くなっています。転入者は50代以上が多く、宇陀市の自然環境を求めて転入する人が多くなっています。

（図）社会増減の傾向



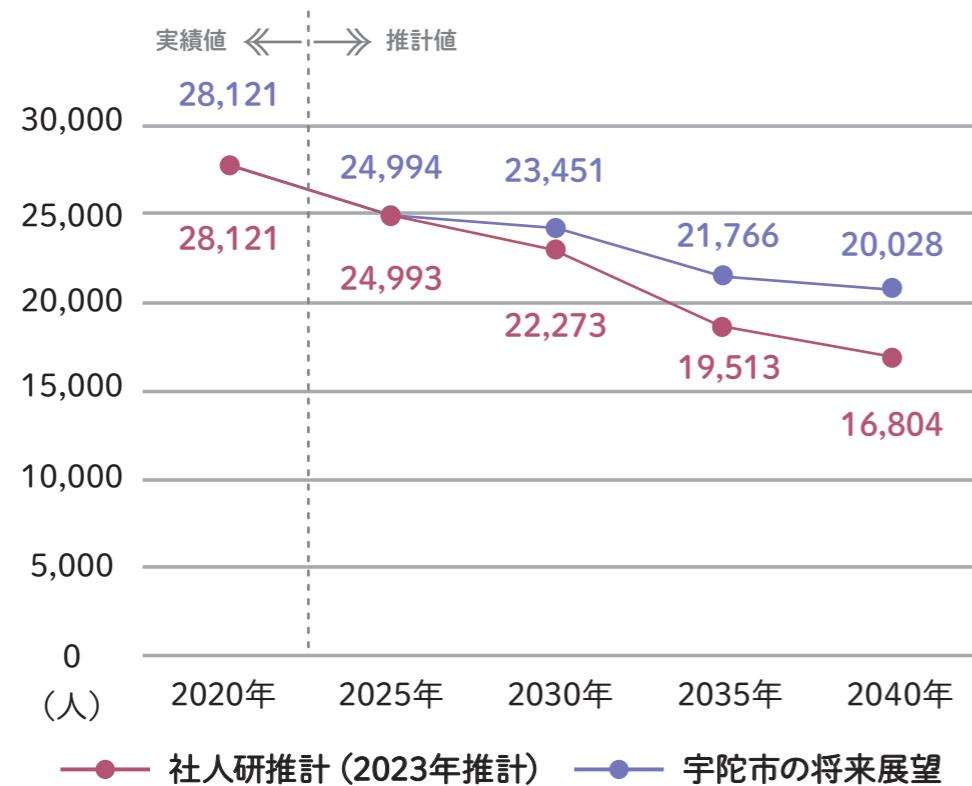
2 将来人口

中期基本計画では、2015年に定めた2040年時点の宇陀市の人口目標と社人研の推計値の乖離が大きかったことから、社人研推計（2018年推計）を基に出生率が年々上昇すると仮定したシミュレーションに基づき、2040年時点の人口目標を20,000人と定めました。

後期基本計画においては、2040年時点の人口の推計値が、2018年推計から2023年推計にかけて若干上振れしているものの、大きな乖離ではないことから、引き続き2040年時点の人口目標を20,000人に設定します。出生率の上昇、転入者の増加、転出者の抑制、高齢者の健康寿命の延伸等を図り、人口目標の達成に向けて事業を実施していきます。

将来人口（2040年） 20,000人

(図) 総人口の推移予測



資料：国勢調査（2020）、社人研推計（2025～2040）

